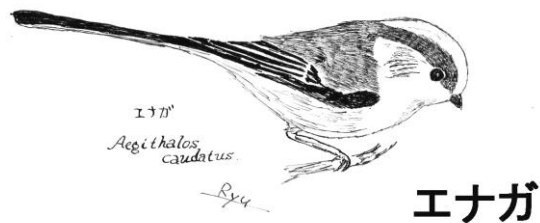


万博公園探鳥会 2009年度の記録

(09年4月～10年3月)

2010年3月31日



- ①万博探鳥会 09年度実績
- ②09年度探鳥会概要
- ③01年～09年観察記録からの特記
- ④01年～09年度観察回数

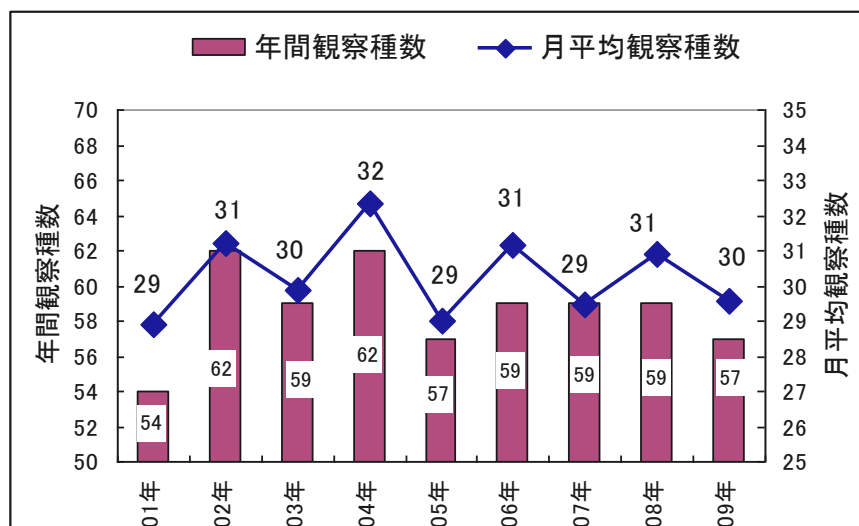
集約 吹田野鳥の会／日本野鳥の会大阪支部
協力 (独)日本万国博覧会記念機構

①万博探鳥会 09年度実績

- ・ 主催 日本野鳥の会大阪支部
- ・ 定例開催日 毎月第2土曜日
9：30 自然文化園中央口集合
15：00 頃日本庭園東側で終了解散
- ・ 年間探鳥会回数 12回
- ・ 探鳥会で観察した鳥 57種 (08年 59種)
毎回の観察種 20～37種 (08年 19～39種)
年平均 29.6種／回 (08年 30.9種)
- ・ 探鳥会参加者数 709人 (08年 598人)
毎回の参加者 29人～86人 (14～85人)
年平均 59人／回 (08年 46人)
(参加者が若干回復、しかし07年以前に及ばず)

・01～09年観察種数

09年の年間観察種数は57種(08年59種)と2種少なく最低レベルに止まり、探鳥会1回当りの観察種数も30種(08年31種)と低レベルであった。



②09 年度(09/4～10/3)探鳥会概要

月/日	観察種数	参加者数	天候	コメント
4/11 5/9 6/13	31 32 24	74 73 59	晴 晴 晴	<p>(4月)快晴の花見日和で園内は人の波。そのため冬鳥シメ・ツグミ・シロハラ・アトリなどは林縁部でひっそり餌探しをしていた。期待していたオオルリはいなかったが、ニューナイスズメやマヒワが新芽が出始めたクヌギの樹上で餌を探していた。</p> <p>(5月)最高気温が28℃の夏日。春の渡り鳥はエゾムシクイ・センダイムシクイ・キビタキ・コサメビタキ、残っていた冬鳥はツグミ・シメ、留鳥のカイツブリも日本庭園心字池で石の上に作った巣で抱卵していた。</p> <p>(6月)梅雨特有の蒸暑い日。シジュウカラ、セグロセキレイ、ハクセキレイ等の幼鳥をじっくり観察、日本庭園の心字池ではカイツブリに雛が4羽生まれていて、親鳥の背中の羽の中に潜り込んで頭だけを出している微笑ましい光景を見ることができた。</p>
7/11 8/8 9/12	21 20 24	34 34 29	曇&晴 晴 曇	<p>(7月)日差しがほとんど無くこの時期としては過ごしやすい一日、ゴミ拾いをしながら、エナガ・シジュウカラ・メジロなどの若鳥を楽しみました。午後日本庭園心字池でカワセミをゆっくり、万博としては珍しくアオサギの成鳥・幼鳥4羽が同時に見たが、カルガモを見ないまま終わった。</p> <p>(8月)真夏のかんかん照りの中(最高気温36℃)日陰を求めた林の散策路、鳥の声はクマゼミを中心とするセミの合唱に消され、あまりは聞こえませんでした。それでもシジュウカラ・エナガ・カワラヒワ・ヒヨドリ・スズメなどの幼鳥が次々、午後からもカワセミ・カイツブリなどの幼鳥が出てくれた。</p> <p>(9月)雨確率の高い予報だったが、終了時まで雨にあわずにすんだ。秋の渡り鳥で楽しみなコサメビタキ、広場ではムクドリやハクセキレイが多く、太陽の塔の近くではエゴノキの実にくるヤマガラ、日本庭園ではカワセミをゆっくり見ることができた。</p>
10/10 11/14 12/12	32 31 33	64 36 60	晴 曇後晴 曇	<p>(10月)台風一過で快晴の探鳥日和。ノビタキ3羽・メボソムシクイ4羽・コサメビタキ3羽などヒタキの仲間、各1羽ずつであるがヨシガモ・コガモのカモの仲間、更にタカの仲間もノスリ3羽、鳥合わせ時にはハチクマ3羽が飛ぶなど、秋の渡り鳥を満喫することが出来ました。</p> <p>(11月)朝まで雨、しかも雨確率が60%と高く参加者は少なかったが、雨に降らず午後から快晴となった。雨上がりで人気の無い「東の広場」ではハクセキレイ50羽ほどが飛び交い、ジョウビタキ・シロハラ・ツグミ・アトリ・アオジ・シメなど冬鳥がほぼ勢ぞろいした。カワウもサギも出ず種数は32種に止まったが、カワセミやカラの混群に良く会い、午後から同一個体と思われるオオタカが青空をバックに何回かゆっくり旋回するなど、晩秋の鳥を楽しむことが出来た。</p> <p>(12月)初冬と思えないほど暖かい一日、参加者に半袖の人もいたくらい。今日はカワセミデー、あちこちで姿を見ることができた。公園内に何個体いるのだろうか。ツグミが増えてきたようだ。また、昨シーズンに続き、シメも小群で飛び回っていた。ただ、学生がマラソンの練習で芝生を走り回る人がいて、鳥が落ち着かなかったのが残念だった。</p>
1/9 2/13 3/13	35 37 35	75 86 85	晴 晴 曇後雨	<p>(1月)トビックスは水抜きされた夢の池にいた4羽のイカルチドリ、コチドリとは違う鈍い色を確認した。あちこちの池でカワセミ、アキニレに集まっていたアトリの群、そしてハイタカ・オオタカが何回も上空を飛ぶなど、寒さが和らいだ気持ちの良い探鳥日和でした。</p> <p>(2月)万博探鳥会は1985(昭和60)年2月にスタートし満25歳、お屋に記念写真を撮った。がありました。万博としては珍しくミサゴやトビが飛び、シメ・アトリ・カワラヒワ・ジョウビタキ・カワセミなど常連の小鳥もよく観察できた。</p> <p>(3月)3月に入っても寒い日が続いていたが、芝生で採餌するアトリに頭が黒いものがあったり、シメの嘴が銀色になるなど、野鳥の姿に春を感じられるようになってきた。透明感のあるイカルの囀りが印象的な一日でした。また、日本庭園の池が水抜きされていたのが原因か、珍しくカワセミが観察できなかつた。</p>

③01～09 年度 観察記録からの特記

1. 09 年のトピックス

01 年以降 08 年の 8 年間観察されていなかった鳥で、09 年に追加された鳥はヒバリとエゾムシクイでした。一方、万博探鳥会開始以来 25 年間、毎回見てきたカルガモの連続観察記録が切れることとなった。

①**ヒバリ** 10 年3月に観察されたが、探鳥会での観察は 98 年 4 月以来 12 年ぶりでした。97 年までは年数回程度観察していたのに見られなくなったのは、万博公園の木々の生長とともに草はらがなくなり、ヒバリが好む環境でなくなったためと推定している。

②**エゾムシクイ** 毎年 4 月 15 日～5 月 5 日の間に実施している春の渡り鳥早朝調査では、数羽程度であるが確認しているの、毎年春の渡り時に通過している渡り鳥である。しかし、定例探鳥会は第 2 土曜日のため、4 月で早すぎ、5 月で遅すぎることから、エゾムシクイのみでなく春の渡り鳥全般にあまり観察していない。25 年間の探鳥会でエゾムシクイ観察は 96 年 2 回のみであったが、09 年 5 月探鳥会で 13 年ぶりに 3 回目の観察を記録することができた。

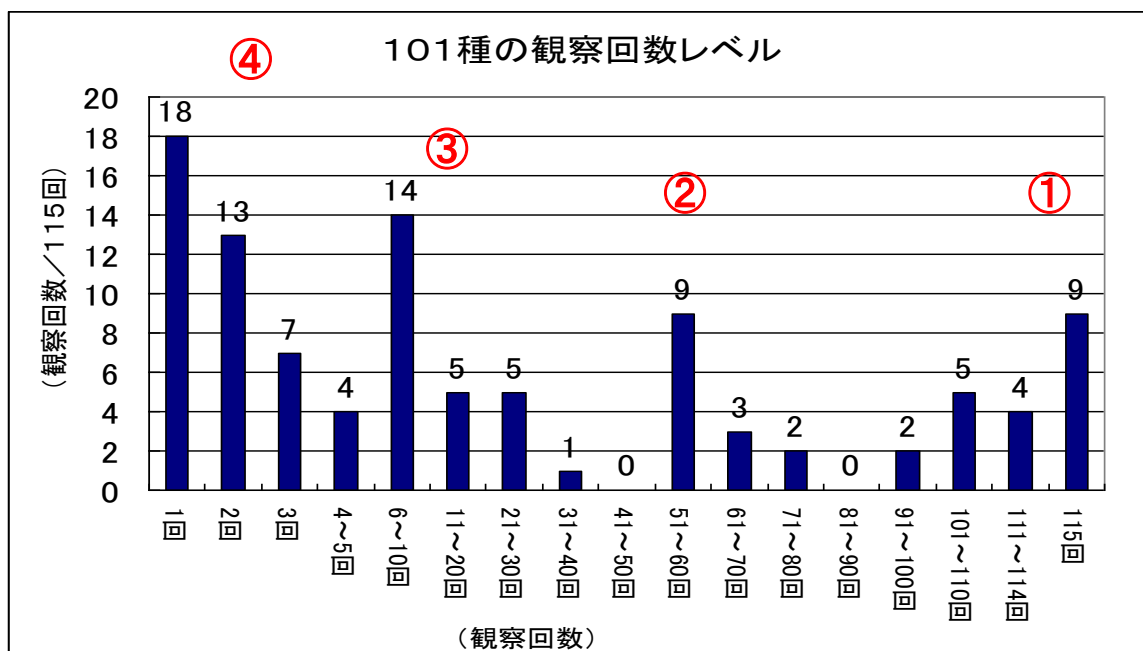
③**カルガモ** 85 年 2 月探鳥会を開始して以来、25 年間毎月観察し続けて来たカルガモが 09 年 7 月に観察できず、観察記録が途切れてしまった。最近観察個体数も多くないので、今後の推移をよく見ていきたい。

2. 9年間探鳥会115回での観察回数

・**毎月観察できた鳥** 01 年からの 9 年間、115 回の探鳥会で観察した鳥は、前年よりヒバリ・エゾムシクイの 2 種が増え 101 種となった。このうち、115 回すべての探鳥会で確認した鳥は、昨年の 10 種から 1 種減少（上述のカルガモ）し、**カイツブリ、キジバト、セグロセキレイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス** の 9 種となった。これらの 9 種はすべて万博公園内で巣作り・繁殖・子育てをしている留鳥である。

・**観察回数レベル** 上記 9 種は 115 回すべての探鳥会で観察した種であるが、観察回数レベルを図示すると 4 グループに分かれる。

- ①観察回数が 100 回以上と、ほぼ毎月観察できる留鳥
- ②観察回数が 50 回台の冬鳥・夏鳥
- ③観察回数が 10～30 回の春秋常連の渡り鳥
- ④観察回数が 1～数回の春秋に稀に観察できる渡り鳥



・観察回数 50 回前後の鳥は主として冬鳥

今回は②51～60 回に含まれる鳥を抜き出して見る。

51～60 回の観察種9種は、ツバメ(59 回)、バン(57 回)、シメ(57回)、アオジ(57 回)、ツグミ(56 回)、ジョウビタキ(53 回)、アトリ(54 回)、オオタカ(51 回)、シロハラ(51 回)であった。夏鳥のツバメ・バン以外は冬鳥、秋に繁殖地の北国から渡ってきて 6 ヶ月前後万博公園に滞在していて、春になると繁殖地に戻っていく鳥たちである。

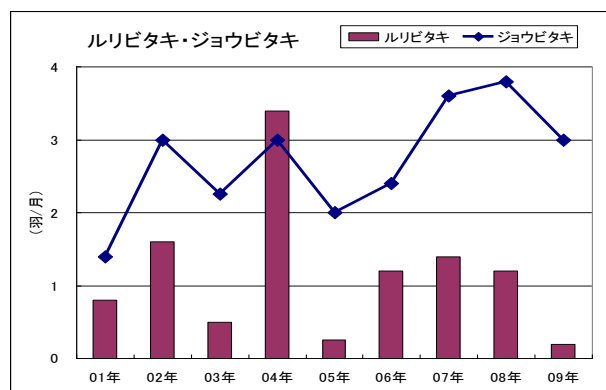
2. 冬鳥の個体数推移

探鳥会での観察個体数は、たまたま見た鳥をカウントしているのみの概数であり、その月によってコースを変えているなどの影響もあり、絶対的なものではないが、多いか少ないかの相対的なデータとして利用できると思われる。

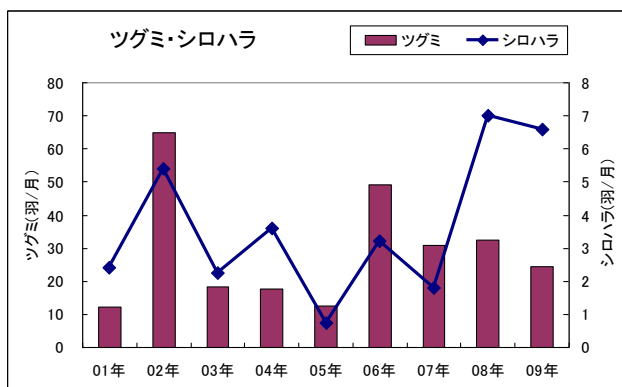
そこで、観察回数 50 回台の冬鳥、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、アオジ、アトリ、シメに、観察回数 30 回のルリビタキを追加した冬鳥 7 種について、観察個体数推移をまとめてみた。

・ルリビタキ・ジョウビタキ

ルリビタキについては 04 年のみを 3 羽 / 月と多かったが、それ以外は 1 羽前後であった。しかし、今



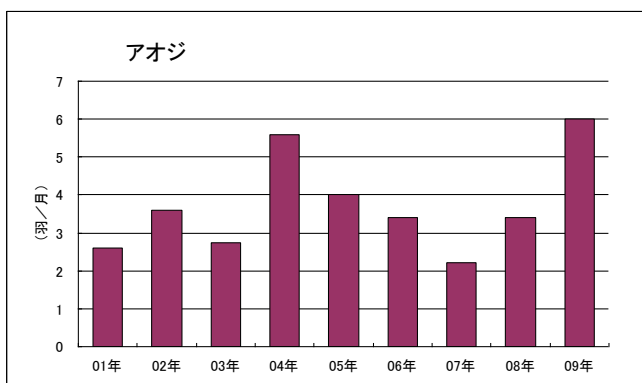
年は11月～3月の5回の探鳥会での観察回数が10年3月の1羽のみで過去最低レベルとなった。一方ジョウビタキは3羽／月ではほぼ平年並みであった。



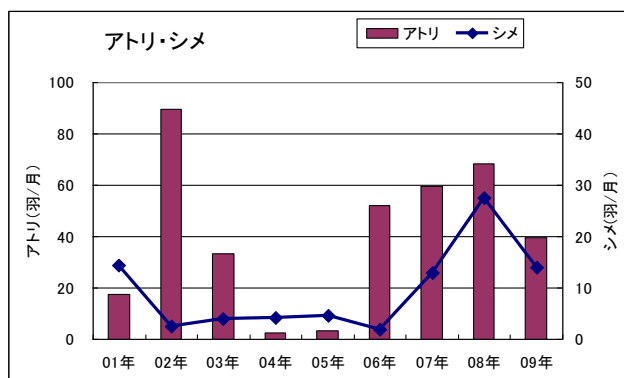
・**ツグミ・シロハラ** ツグミは冬鳥で最もポピュラーな鳥であるが、その年によって、また月によって増減している。この9年間で最大の02年は、35～144羽／月(平均65羽)であったが、09年は15～37羽／月(平均24羽)にとどまった。

一方シロハラは08年・09年と高レベルにあり、10年2月には11羽観察した。

・**アオジ** 万博探鳥会を開始した頃は留鳥であったホオジロなどホオジロ科の小鳥は、草はら環境の消滅とともに減少し、09年はホオジロが全く観察されず、ミヤマホオジロも09年12月に1回観察されたのみである。そんな中で唯一、アオジのみは毎冬の探鳥会で観察されており、09年は月平均7羽と多かった。



・**アトリ・シメ** 一方、アトリ科の鳥は万博公園の森林化が進むとともに増えており、



09年はアトリが平均40羽、シメ13羽とで前年より少なかったものの、よく観察できた。シメは数年毎に波があり、ここ3年はよく観察できている。

④01～09年度 観察回数

	科名	種名	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	トータル
1	カイツブリ	カイツブリ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	115
2	ウ	カワウ	11	12	13	12	13	11	13	11	9	105
3	サギ	ゴイサギ	2	2	0	2	0	0	2	0	0	8
4		ササゴイ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
5		ダイサギ	1	5	2	1	0	3	1	3	5	21
6		チュウサギ	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
7		コサギ	6	7	9	8	7	11	12	10	9	79
8		アオサギ	12	12	10	12	11	12	11	13	10	103
9	カモ	オシドリ	0	0	2	0	2	10	2	1	0	17
10		マガモ	10	10	13	12	13	13	11	11	9	102
11		カルガモ	13	13	13	12	13	13	13	13	11	114
12		コガモ	0	0	0	0	1	1	0	2	1	5
13		ヨシガモ	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
14		オカヨシガモ	3	2	3	4	0	0	1	0	0	13
15		ヒドリガモ	0	1	1	4	5	5	4	4	4	28
16		アメリカヒドリ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
17		オナガガモ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
18		ハシビロガモ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
19	タカ	ミサゴ	1	0	0	1	1	1	0	3	2	9
20		ハチクマ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
21		トビ	1	2	0	2	1	2	1	4	2	15
22		オオタカ	4	4	7	7	6	4	8	6	5	51
23		ハイタカ	4	6	3	3	8	3	4	4	5	40
24		ノスリ	0	1	0	0	1	0	2	2	1	7
25		サシバ	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
26	ハヤブサ	ハヤブサ	6	0	0	0	2	0	0	1	0	9
27	クイナ	バン	10	8	10	7	10	2	6	3	1	57
28	チドリ	コチドリ	1	0	1	1	0	0	2	0	0	5
29		イカルチドリ	0	1	0	1	0	0	0	1	1	4
30		ケリ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
31	シギ	クサシギ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
32		イソシギ	1	0	0	0	1	0	1	0	0	3
33		ヤマシギ	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
34		タシギ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
35	カモメ	ユリカモメ	0	2	1	1	0	2	1	1	0	8
36		セグロカモメ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
37	ハト	キジバト	13	13	13	12	13	13	13	13	12	115
38		アオバト	2	5	5	4	0	0	1	3	2	22
39	カッコウ	ツツドリ	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
40	フクロウ	フクロウ	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
41	アマツバメ	アマツバメ	0	0	0	1	1	0	0	1	0	3
42	カワセミ	カワセミ	11	11	10	11	12	11	13	11	10	100
43	キツツキ	アカゲラ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
44		コゲラ	13	12	13	11	13	13	13	13	11	112
45	ヒバリ	ヒバリ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
46	ツバメ	ショウドウツバメ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
47		ツバメ	7	7	6	6	7	6	7	7	6	59
48		コシアカツバメ	1	1	1	0	1	0	0	0	0	4
49		イワツバメ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
50	セキレイ	キセキレイ	5	8	8	7	9	8	8	8	7	68
51		ハクセキレイ	11	12	11	11	12	12	12	13	12	106
52		セグロセキレイ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	115

	科名	種名	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	トータル
53	セキレイ	ビンズイ	3	5	2	3	1	2	0	0	3	19
54	(続き)	タヒバリ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
55	ヒヨドリ	ヒヨドリ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	115
56	モズ	モズ	8	8	9	6	7	7	6	8	7	66
57	レンジャク	キレンジャク	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
58		ヒレンジャク	0	0	1	0	0	2	0	0	0	3
59	ツグミ	コマドリ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
60		ルリビタキ	3	4	3	5	2	4	3	5	1	30
61		ジョウビタキ	6	6	6	6	6	6	6	6	5	53
62		ノビタキ	1	1	0	0	0	0	0	3	2	7
63		トラツグミ	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
64		アカハラ	1	0	0	1	1	2	1	0	0	6
65		シロハラ	5	6	5	7	3	7	5	7	6	51
66		ノドグロツグミ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
67		ツグミ	6	6	7	7	5	7	6	5	7	56
68	ウグイス	ウグイス	6	8	6	8	4	7	6	8	9	62
69		オオヨシキリ	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
70		メボソムシクイ	0	0	1	2	0	0	2	0	1	6
71		エゾムシクイ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
72		センダイムシクイ	1	3	2	0	1	0	1	0	1	9
73		キクイタダキ	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
74	ヒタキ	キビタキ	0	1	1	1	0	2	2	1	1	9
75		オオルリ	0	1	0	0	1	2	1	2	0	7
76		サメビタキ	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
77		エゾビタキ	0	1	0	2	0	1	0	2	0	6
78		コサメビタキ	2	4	3	2	2	2	3	3	3	24
79	エナガ	エナガ	13	13	13	12	12	12	11	13	12	111
80	シジュウカラ	ヒガラ	1	1	0	1	0	6	1	0	0	10
81		ヤマガラ	7	10	11	10	12	10	13	13	11	97
82		シジュウカラ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	115
83	メジロ	メジロ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	115
84	ホオジロ	ホオジロ	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3
85		ミヤマホオジロ	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
86		アオジ	7	7	7	7	6	7	5	5	6	57
87		クロジ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
88	アトリ	アトリ	7	7	7	5	3	6	5	8	6	54
89		カワラヒワ	13	13	13	11	13	13	12	13	12	113
90		マヒワ	0	0	1	0	0	4	1	0	1	7
91		ベニマシコ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
92		ウソ	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
93		イカル	12	12	7	11	5	7	4	9	5	72
94		シメ	6	5	5	8	7	5	7	7	7	57
95	ハタオリドリ	ニューナイスズメ	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
96		スズメ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	115
97	ムクドリ	コムクドリ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
98		ムクドリ	13	13	11	11	13	12	12	12	11	108
99	カラス	カケス	0	0	0	6	0	5	0	1	0	12
100		ハシボソガラス	13	13	13	12	13	13	13	13	12	115
101		ハシブトガラス	13	13	13	12	13	13	13	13	12	115
計			376	406	388	388	377	405	383	402	355	3480
			01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	年平均
年間観察種数			54	62	59	62	57	59	59	59	57	59
月平均観察種数			29	31	30	32	29	31	29	31	30	30
参加者数			1249	1155	1079	1004	856	771	763	598	709	909